キャンプと特別な体験　関東・山梨、地域振興にも活用

データで読む地域再生　関東・山梨

#データで読む地域再生 #山梨 #千葉

2022/9/2 21:00 [有料会員限定]

オフシーズンだった冬もテント泊をする利用者が増えている四尾連湖の水明荘キャンプ場（山梨県市川三郷町）

関東・山梨の8都県でもキャンプの人気は高まっている。キャンプ場予約サイト「なっぷ」（8月3日時点）によると、最もキャンプ場が多いのは山梨県の235カ所で全国でも3位。千葉・栃木・群馬の3県も全国平均の98カ所を上回る。キャンプだけでなく、プラスアルファの様々な楽しみ方ができる施設が注目を集め、ブームを地域の活性化につなげる動きも目立つ。

データで読む地域再生

山梨県では富士北麓や八ケ岳南麓にキャンプ場が続々と誕生し、オフシーズンだった冬のキャンプ需要をも生み出した。人気アニメ「ゆるキャン△」が冬場のソロキャンプを描いた影響が大きい。舞台になった四尾連湖（市川三郷町）のキャンプ場は「冬キャンプの利用客が増え、年間通して客が来るようになった」（県観光文化部）。

良品計画が運営する無印良品カンパーニャ嬬恋キャンプ場（群馬県嬬恋村）ではカヤックなどを楽しむことができる

キャンプを「目的」よりも「手段」ととらえ、キャンプをしながら追加の特別な体験を求める人も増えている。標高約1300メートルの高原にある群馬県嬬恋村の無印良品カンパーニャ嬬恋キャンプ場は目の前の湖でカヤックや釣り、サイクリングなどを楽しめる。

施設は良品計画が運営し、通常のテントのほか、同社が販売する「無印良品の小屋」や住宅関連のイベントにも出展した「家具の家」に宿泊できる。

栃木県那須町のキャンプ・アンド・キャビンズ那須高原はイベントの多さが魅力だ。8月にはボードの上に立ってパドルをこいで水面を進む「スタンドアップパドルボード（SUP）」、滝や沢を登るシャワークライミングなどのツアーを連日実施。ハンバーガー作り体験やビンゴ大会などの子ども連れが楽しめるイベントも開いた。

箱根小涌園ユネッサンではキャンプ用品をすべてレンタルできる（神奈川県箱根町）

キャンプ初心者が手軽に楽しめる施設も増えている。神奈川県箱根町の温泉テーマパーク、箱根小涌園ユネッサンは8月から敷地内に泊まる「温泉付き手ぶらキャンプ」プランの販売を始めた。テントやグリル、食器などをレンタルし、食材も予約できる。担当者は「気軽に箱根に来てキャンプと温泉を楽しんでほしい」と話す。

キャンプブームを地域の活性化に生かす取り組みも進む。山梨県身延町は利用客が減っていた道の駅しもべを7月にリニューアルし、オートキャンプ場を新設。「旅の途中に立ち寄る施設から旅の目的地にする」（同町観光課）狙いで、週末は多くの利用客でにぎわうという。

昭和ふるさと村（栃木県茂木町）は廃小学校のプールサイドをグランピング場にした

栃木県茂木町の「昭和ふるさと村」は廃校になった小学校をキャンプ場に活用。校庭跡地をオートキャンプ場として、プールサイドには水上コテージつきのグランピング場を設けた。

茨城県はアウトドアを観光の柱とするため、県内のキャンプ場情報を検索できる公式サイト「いばらきキャンプ」を20年に立ち上げ、県を挙げて集客に取り組んでいる。

廃校やゴルフ場をキャンプ場に転換する取り組みに加え、「にこにこキャンプ」（笠間市）など新設も相次ぐ。県によると直近2年間で10以上のキャンプ場ができた。

かつての校庭にテントが並ぶ「高滝湖グランピングリゾート」（千葉県市原市）

キャンプ場数が207カ所と山梨県に次いで全国4位の千葉県では、市原市で廃校を再生して21年4月に開業した人気グランピング施設「高滝湖グランピングリゾート」の集客力を生かし、過疎地ににぎわいをよみがえらせる取り組みが進んでいる。

市観光協会やNTT東日本、千葉銀行など業種を超えた22の企業・団体が「高滝湖連携プロジェクト」を組織し、事業者の誘致に力を入れる。すでに農業法人や飲食・観光業など6社が進出し、近くもう1社も実現予定という。市観光協会の池田正臣専務理事は「施設への新たな人の流れを地域のつながりに生かしたい」と話す。

（加藤敦志）